

積算資料 建設資材価格指数

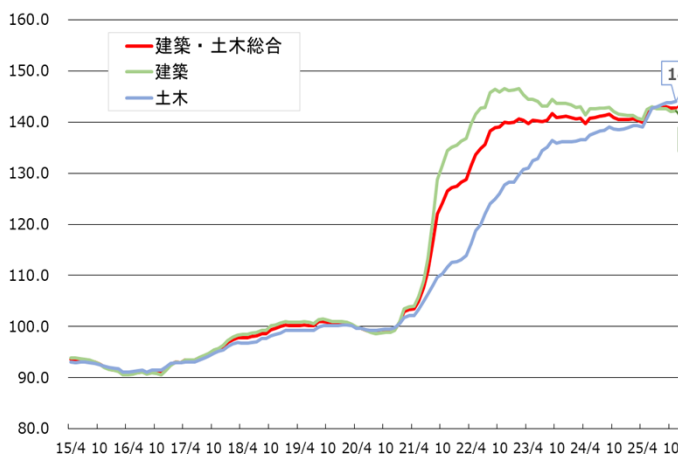


一般財団法人 経済調査会 経済調査研究所

建設資材価格指数は、建設工事で使用される資材についてその価格変動を総合的に捉えることを目的とした指数です。年々変化する建設工事の内容に対応した総体的な価格変動を表す総合資材価格指数として、価格変動に係わる資料や効率的な資材確保の資料等としてご利用下さい。

指数の推移（2025年11月調査）

全国・2020年度平均＝100



	当月指数	前月比	前年同月比
建築・土木総合	142.8	+0.1	+2.3
建築	142.2	+0.1	+0.6
土木	144.0	+0.2	+5.5

指数の詳細な計算結果はこちら

<https://www.zai-keicho.or.jp/service/build/price/>



部門別 主な指数の動き（主要10都市）

	前月比 プラス	前月比 マイナス
建築・土木総合	<ul style="list-style-type: none">●セメント：+21.2大阪●生コンクリート：+12.7広島●骨材：+8.5新潟	<ul style="list-style-type: none">●瀝青材：-2.1仙台、-2.0札幌・高松、-1.9新潟、-1.7名古屋・広島・福岡、-1.5大阪、-1.3那覇、-1.2東京●普通鋼鋼材：-0.4札幌
建築	<ul style="list-style-type: none">●セメント：+21.2大阪●生コンクリート：+12.5広島●骨材：+8.5新潟	<ul style="list-style-type: none">●普通鋼鋼材：-0.4札幌
土木	<ul style="list-style-type: none">●セメント：+21.2大阪●生コンクリート：+13.1広島●コンクリート二次製品：+0.1名古屋●骨材：+8.5新潟	<ul style="list-style-type: none">●瀝青材：-4.6東京・名古屋・大阪・広島、-4.4仙台・福岡、-4.3新潟・高松、-4.1札幌、-3.4那覇●普通鋼鋼材：-0.5札幌

指数集計対象資材の市況

11月調査に基づく建設資材価格指数は、建築・土木総合で142.8となり、前月の下落から一転して前月比プラス0.1ポイントの上昇で推移した。建築・土木両指数も前月を上回ったが、なかでも土木指数は前月から0.2ポイント上昇し過去最高値を更新。大阪地区のセメント価格がt当たり2,000円上伸したことが指数の上昇に寄与し、土木指数としては初めて144台に到達することとなった。セメント市況は、メーカーの値上げを契機に4月以降全国的に強基調で推移しており、主要10都市では仙台地区を除く全ての都市で上昇している。こうした動きを背景に、11月調査では広島地区で生コンクリートが一段高となるなど、影響が波及している。今後も地場製品の市況は底堅く推移するとみられ、先行き、指数は現行水準を維持した動きが続きそう。

指数に関するお問い合わせ先

一般財団法人 経済調査会 経済調査研究所 研究成果普及部

TEL.03-5777-8212

©2025 一般財団法人 経済調査会